

グリーンインフラの今後の方向性について 〔骨子イメージ〕

グリーンインフラの今後の方向性(骨子イメージ)

グリーンインフラの今後の方向性 ～これまでとは段差のついた量的拡大に向けて～

- 世界的にNbS(自然に根ざした社会課題の解決)や、ネイチャーポジティブ(自然再興)に向けた取組が注目される中、自然の多様な機能を活用するグリーンインフラへの関心が高まっている。
- グリーンインフラの量的拡大・普遍化を目指し、産学官金労言のグリーンインフラに関わる多様な主体の活動を促進するため、「共通的な目指す姿」を示すとともに、①国民的な機運・理解の醸成、②多様な効果の見える化、③官民の取組を促進する環境整備、④資金調達の円滑化、⑤ 新技術・DXの活用、⑥国際展開の取組、を柱として、重点的に推進。

概念の整理

共通的な目指す姿

〔取組の方向性〕

① 機運・理解の醸成

② 多様な効果の見える化

③ 官民の取組を促進する環境整備

④ 資金調達の円滑化

⑤ 新技術・DXの活用

⑥ 国際展開

施策の進行管理

各取組の方向性

①機運・理解の醸成

- グリーンインフラの更なる普及啓発に向け、グリーンインフラの概念を整理しつつ、共通的に目指す姿に向かって、産官学金労言の多様な主体が一体となって、国民の機運・理解の醸成を進める。

現状と課題

- グリーンインフラについては、「認知が足りない」、「良さを関係者にうまく説明できない」といった声が聞かれている。
- 市民、産業界等の取組主体の関心に応じた訴求ができていない。

テーマ

国民的な運動
の展開

わかりやすい
広報

市民参加・コ
ミュニティ形
成の促進

効果的な取組
事例の展開

取組の方向性

- 国民的な機運・理解を醸成するため、経済界と一体となった活動の展開、官民連携プラットフォームへの参加を促進する取組等、産官学金労言の多様な主体が一体となった国民的な運動を展開する。等

- グリーンインフラの意義を示しつつ、経済界、自治体、市民等、各取組主体の関心に合わせた、わかりやすい、きめ細やかな広報を展開する。等

- 積極的に活動している市民活動の取組を後押しし、市民の参加意欲の醸成や、地域におけるコミュニティ形成を促進する。等

- 先駆的・効果的な取組を表彰する制度について、受賞者と協働して普及促進を図るなど、仕組みを工夫・充実しながら、効果的な取組事例を幅広く展開する。等

- 国土交通省において、産学官の多様な主体が参画し、グリーンインフラに関する様々なノウハウ・技術等を持ち寄る場として、「**グリーンインフラ官民連携プラットフォーム**」を令和2年3月に設立。
- 「企画・広報部会」、「技術部会」、「金融部会」を設置し、グリーンインフラの社会的な普及、活用技術やその効果評価等に関する調査・研究、資金調達手法等の検討を進め、グリーンインフラの社会実装を推進。

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム (R2.3設立)

会員

都道府県
市区町村

関係府省庁

民間企業
学術団体等

個人

運営体制

会 長：西澤敬二（経団連自然保護協議会 会長）

会長代理：涌井史郎（東京都市大学 環境学部 特別教授）

運営委員長：石田東生（筑波大学 名誉教授）

活動内容

企画・広報部会

グリーンインフラの社会的な普及

- 会員同士のパートナーシップ構築拡大
- グリーンインフラ大賞
- 会員参加型の広報の検討 等

技術部会

グリーンインフラ技術の調査・研究

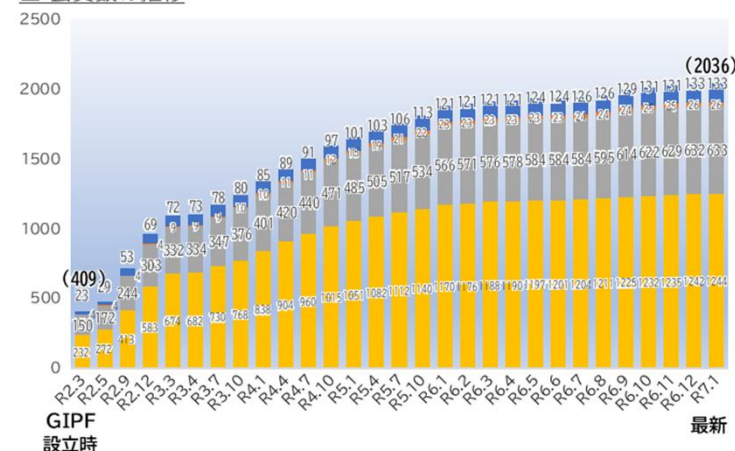
- グリーンインフラ効果の見える化を図る評価手法の体系的な整理
- グリーンインフラ技術の効果的活用方策に関する検討 等

金融部会

グリーンインフラの資金調達の検討

- 多様な資金調達のあり方を検討するための地域モデル実証の実施
- 金融視点からのグリーンインフラの評価指標の検討 等

■ 会員数の推移



■ 一号会員(都道府県及び市区町村) ■ 二号会員(関係府省庁)
■ 三号会員(民間企業、学術団体等) ■ 四号会員(個人)

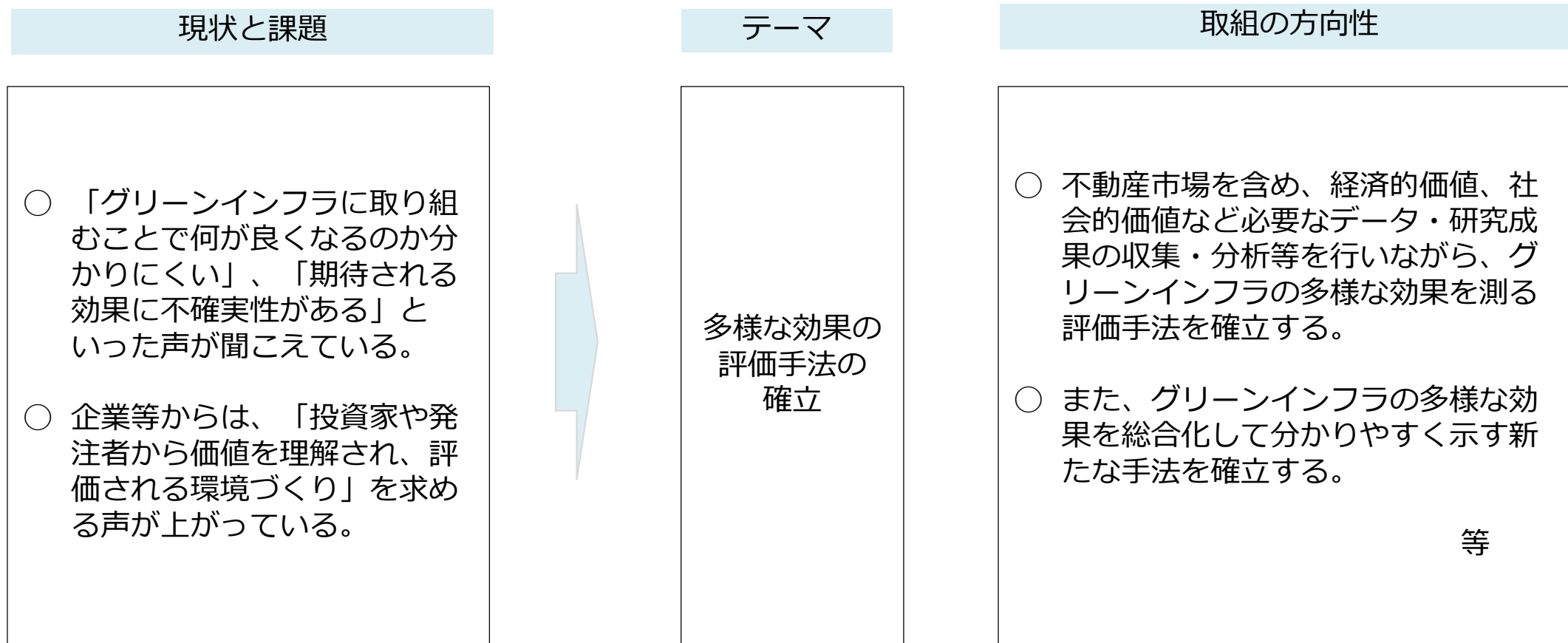
※会員申込みはこちらから
グリーンインフラ官民連携
プラットフォームWEBサイト

<https://gi-platform.com/>



②多様な効果の見える化

- グリーンインフラの意義を伝え、価値化等を図るため、多様な効果を測る評価手法を確立する。
- その際、経済的価値、社会的価値、Well-being向上の観点にも留意していく。



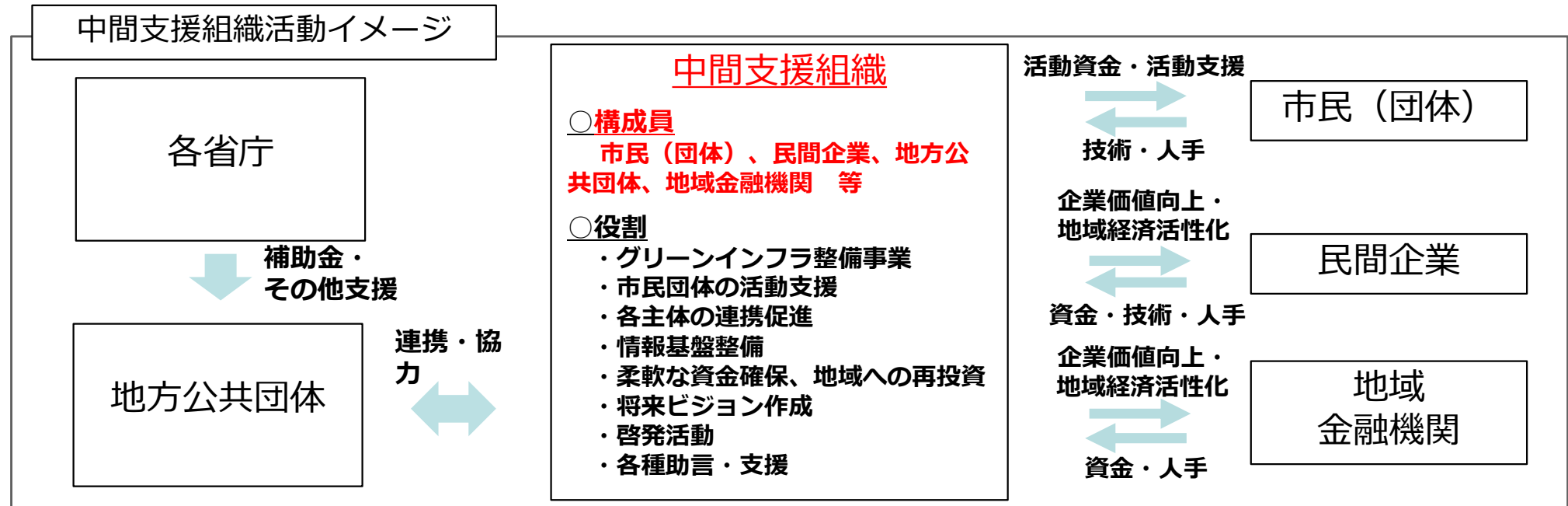
③官民の取組を促進する環境整備

- 資金的・技術的な課題等に対応していく方策や中間支援組織の活動の支援等により、グリーンインフラの導入に取り組もうとする者を後押ししていく。

現状と課題	テーマ	取組の方向性
○ 自治体等からは、「グリーンインフラにどのように取り組めばいいか分からない」といった声がある。 ○ 企業等からは、「維持管理を含めコストがかかる可能性がある。」「経済的なインセンティブを求めたい」といった声がある。 ○ 自治体において、グリーンインフラを専門的に担当する人材が不足している。また、専門的な部署も少ない。 ○ 中間支援組織が有効に機能している取組も見られてきているが、広がりは限定的。	経済的・ 技術的な支援	○ グリーンインフラの導入を検討する者を後押しするため、資金的・技術的な課題等に対応していく方策を検討。 等
	中間支援組織 の取組の支援	○ 中間支援組織が有効に機能した事例の全国展開や、中間支援組織の活動を後押しする方策について検討を進めるなど、中間支援組織が活動しやすい環境整備を図る。 等

【参考】グリーンインフラに関する中間支援組織

- 各地域においてグリーンインフラの実装を進めていく際に、中間支援組織が各主体の連携を加速化させる観点で、重要な役割を果たしている。



グリーンインフラにおける事例

■ **世田谷トラストまちづくり**



バイオスウェル型雨庭を手づくり施工する様子（上）
世田谷グリーンインフラ学校チラシ（右）

〇**取組概要**
世田谷グリーンインフラ学校（雨庭の事例から施工まで学ぶイベント）の企画・運営及び、個人宅等での雨庭づくり支援や宿根草を活用した持続可能な庭づくりの普及等について、区や専門家、活動団体等と連携しながら、推進。

■ **グリーンクリエイティブいなべ**



イベント「EAT WITH NATURE」様子（上）
いなべグリーンインフラフェス2025チラシ（右）

〇**取組概要**
大学や市、地域事業者等と連携しながら、地域の活性化に寄与することを目的として活動。イベントの企画立案、及び開催、にぎわいの森を含む庁舎周辺施設の植栽管理・清掃管理・修繕作業、地域資源を生かした商品開発・販路開拓等を実施。

④ 資金調達の円滑化

- グリーンインフラをあらゆる場面で導入し、継続的に活用していくため、様々な資金調達手法の検討、先駆的な案件創出等により、ファイナンスを活用しやすい環境整備を促進する。

現状と課題

- リスクに見合うリターンを、金融機関・投資家等に訴求できていない。
- グリーンインフラのプロジェクトで資金調達に成功している取組も見られてきているが、広がりは限定的。



テーマ

資金調達の円滑化

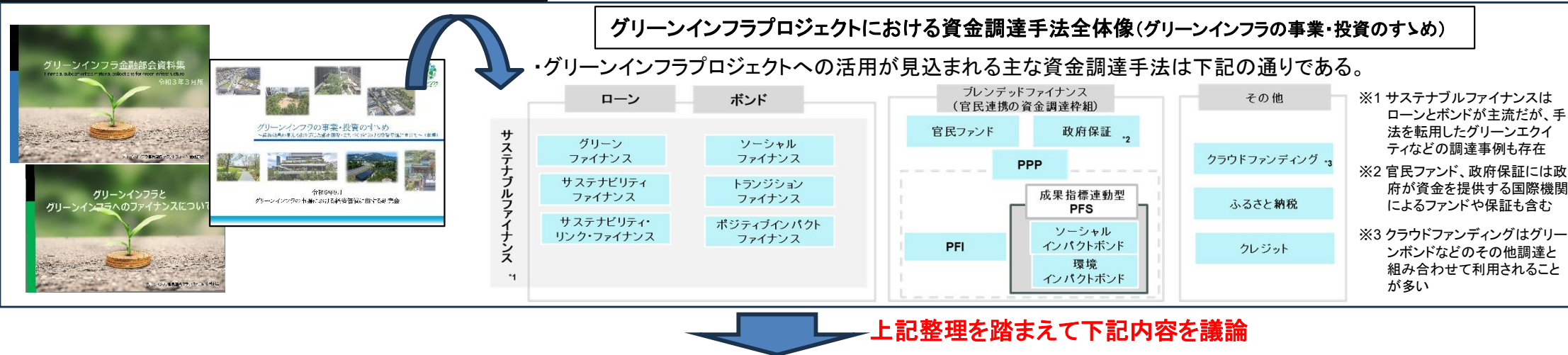
取組の方向性

- グリーンインフラの活用を促進する様々な資金調達手法の検討、先駆的な案件の創出・全国的な横展開等を通じて、取組主体がグリーンインフラにファイナンスを活用できる環境整備を進める。
- 等

【参考】ファイナンススキームの検討 ～2025年1月25日ファイナンスチーム第一回資料～

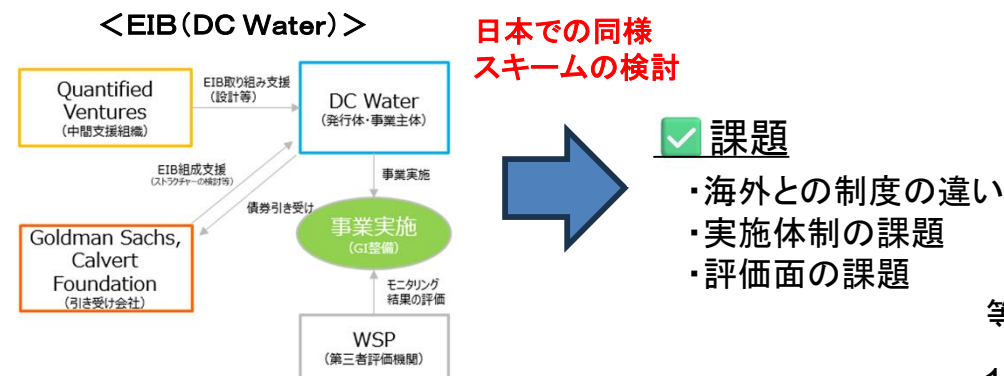
- これまでグリーンインフラの資金調達手法については、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム金融部会を中心に事例等の整理が進められてきた。
- 直近では、「グリーンインフラの市場における経済価値に関する研究会」を通じて公表した「グリーンインフラの事業・投資のすゝめ」において、グリーンインフラとの親和性が認められる資金調達手法を下記の「グリーンインフラプロジェクトにおける資金調達手法全体像」の通り整理された。
- 本ファイナンスチームにおいては下記2つの観点よりファイナンススキームの実装を検討していく。
 - (1) 自治体や民間企業のグリーンインフラに係る取組において、資金調達が必要な実際のフィールドを収集し、どのような形での資金調達が有用なのかについて検討を進めモデル化する。
 - (2) また、グリーンインフラプロジェクトにおける海外調達事例の日本での実装に向けた課題の整理を行う。

これまでのグリーンインフラにおける資金調達整理



(1) 国内実証地域における資金調達スキーム検討・モデル化

(2) 海外調達事例の日本での実装に向けた課題の整理



⑤新技術・DXの活用

- グリーンインフラに関する技術は未だ先進事例の積み上げが必要であり、グリーンインフラの新たな可能性を広げていくためにも、衛星画像の活用・データ解析・データ構築等を含めた、新たな技術やDXの活用を推進する。

現状と課題

- グリーンインフラに関する技術が開発途上であり、まだまだ先進事例の積み上げや事例展開が不十分。
- グリーンインフラに関するデータの収集・整備・連携が十分に図られていない。

テーマ

新技術やDX
の活用促進

取組の方向性

- グリーンインフラの活用可能性を広げていくため、先進的な技術開発（要素技術、モニタリング技術等）の促進・全国展開、自然関連情報に関する様々なデータの整備、データ間連携、データ利活用等の促進、グリーンインフラ技術に関するニーズとシーズのマッチングの促進等を進める。

等

⑥ 国際展開

- 世界的にNbSなどの自然活用の動きが見られる中、日本企業が国際的に活動しやすくなるよう、国際展開を見据えた取組を検討する。検討にあたっては、世界標準としての普遍性や適用国における地域性（自然災害・暑熱・人口減少等日本と類似する社会課題）にも留意する。

現状と課題

- 世界的に、NbSやグリーンインフラの評価手法について標準化されておらず、また、各国で取組内容が異なる中で、日本と異なるモノサシで国際標準化されると、我が国企業が活動しにくくなる。

テーマ

グリーン
インフラの
国際標準化

取組の方向性

- 海外の現状や国内外のニーズ調査等を踏まえた国際標準化に向けた検討等を行い、我が国のグリーンインフラに関連する取組や、多様な効果の評価手法を国際的にアピールしていくこと等を通じて、日本企業が国際的に活動しやすい環境づくりを進める。

等

浸透度合や、必要な施策等の進捗管理について

- 必要な施策を適切なタイミングで展開していく観点から、アンケート等により理解度や浸透度合いを継続的に測定していく。
- また、進捗状況を多面的に把握していく観点から、**各分野におけるグリーンインフラに関連する既存データを活用して、観測指標を設ける**こととしてはどうか。

(※ イメージ)

全分野共通

- | | |
|---|---|
| ☐ グリーンインフラを計画に位置付けた自治体数 | ☐ グリーンインフラの市場規模 |
| ☐ 予算を活用してグリーンインフラに関する取組を実施した自治体数 | ☐ グリーンインフラの資金調達件数（PFS/SIB、ふるさと納税等） |
| ☐ GREEN×EXPO 2027における参加者 | ☐ グリーンインフラ官民連携プラットフォーム登録者数 |
| ☐ 国土の管理構想策定数 | ☐ OECM登録件数 等 |

注記）PFS：成果運動型民間委託契約方式（PFS：Pay For Success）
SIB：ソーシャル・インパクト・ボンド

都市

- | | |
|--|---|
| ☐ 都市の水と緑の公的空間確保量 | ☐ 都市緑化等によるCO2吸収量 |
| ☐ 緑の基本計画へのGI位置付け数 | ☐ 防災減災GIを実施した都市数 |
| ☐ 緑の基本方針に基づく緑の基本計画等の数 | ☐ リート等の資産総額 |
| ☐ 滞在快適性等向上区域を設定した市町村数 | |

道路

- ☐ 道路緑化によるCO2吸収量

河川

- ☐ 定量目標のある河川整備計画の数
☐ 流域水循環計画の策定数

海岸

- ☐ 適切に保全されている海岸防災林等の割合

港湾

- ☐ 海辺の自然学校開催実績数

等

※上記のほか、例えば、「グリーンインフラによる健康指数」といったように、社会課題に応じた観測指標の設定も考えられる。



観測指標

※分野別
指標

※正式な
指標名は
次頁

【参考】観測指標一覧

(※ イメージ)

【観測指標 一覧】

- ・ グリーンインフラ官民連携プラットフォーム登録者数
 - ・ グリーンインフラを計画に位置付けた自治体数
 - ・ グリーンインフラ官民連携プラットフォーム登録自治体のうち、予算を活用してグリーンインフラに関する取組を実施した自治体数（目標値：令和7年度までに70自治体）
 - ・ グリーンインフラの市場規模
 - ・ グリーンインフラの資金調達件数（PFS/SIB、ふるさと納税等）
 - ・ 持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数
 - ・ GREEN×EXPO 2027における参加者数1,500万人
 - ・ 20件以上の箇所で管理構想の策定に着手した上で、10件以上の策定を目指す（市町村管理構想・地域管理構想の策定数）。
 - ・ OECM登録件数（目標値：30by30）
-
- ・ 都市緑化等の推進によるCO2吸収量（目標値：2030年度 124万t-CO2）
 - ・ 全国の主要都市（30都市を想定）における防災・減災に資するグリーンインフラの取組み実施率（目標値：2025年度までに90%）
 - ・ 一定水準の防災機能を備えるオープンスペースが一箇所以上確保された都市の割合（目標値：2025年度までに75%）
 - ・ リート等の資産総額（目標値：令和12年度までに40兆円）
 - ・ 滞在快適性等向上区域を設定した市町村数（目標値：令和17年度までに200市町村）
 - ・ 都市域における水と緑の公的空間確保量（目標値：2025年度までに15.2m²/人）
 - ・ 緑の基本計画の策定・改定においてグリーンインフラを位置付けた割合（目標値：2025年度までに70%）
 - ・ 緑の基本方針に基づく目標が設定された緑の広域計画・基本計画の数
 - ・ 河川環境の定量的な目標を位置付けた河川整備計画の策定数（目標値：国管理河川の全121計画）
 - ・ 地方公共団体等による流域水循環計画の策定数（目標値：7計画/年度）
 - ・ 海辺の自然学校開催実績数（目標値：21件以上（毎年度））

参考

【参考】経済界との連携について



※ 経団連自然保護協議会との意見交換会
(経団連HPより抜粋)

国土交通省との意見交換会 ～グリーンインフラの経済価値の見える化、都市緑化を推進する新たな認証制度～

2025.2.28

経団連自然保護協議会

経団連自然保護協議会は2月17日、グリーンインフラの経済価値や、都市緑化の推進をテーマに、国土交通省とのウェビナーによる意見交換会を実施しました。

同協議会は、国土交通省が事務局を務める「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム」に参画し、西澤会長が同プラットフォームの会長も務めるなど、国土交通省が進める自然関連の施策を推進しています。

当日は、同協議会会員から約40名が出席し、冒頭、国土交通省総合政策局環境政策課の清水充課長にご挨拶いただきました。2015年に閣議決定された国土形成計画にグリーンインフラの取組推進が初めて盛り込まれてから10年という節目の年として、国内外の動向と関連付けつつ、グリーンインフラが確立されてきた道筋、今後の拡大や国際展開へのビジョン、ビジネスの拡大を通じた自然共生を目指す意義などが伝えられました。

挨拶に続き、国土交通省総合政策局環境政策課の高森真人課長補佐より、「グリーンインフラの経済価値の見える化」をテーマに、24年9月に公表された「

グリーンインフラの事業・投資のすゝめ」に基づいて講義いただきました。「グリーンインフラの事業・投資のすゝめ」では、グリーンインフラによる多様な経済効果や、グリーンインフラに関する評価・認証制度やファイナンスの仕組み等が具体的に示されています。説明の中で、NbS※における国際動向や、グリーンインフラの経済価値分析における研究成果、経済効果が見られた国内外の取り組み事例などが紹介されました。

続いて、国土交通省都市局都市環境課の酒井翔平課長補佐より、「都市緑化を推進する新たな認証制度」をテーマに、24年11月に運用が開始された「

優良緑地確保計画認定制度（愛称：TSUNAG）」を中心に講義いただきました。TSUNAGは、都市緑地法（24年5月改正、11月施行）に基づき、民間事業者等による気候変動への対応、生物多様性の確保、Well-beingの向上などに貢献する良質な緑地の確保の取組を評価し、国土交通大臣が認定するものです。説明の中で、認定の要件や評価項目に加えて、グローバル基準との連携、認定取得によるインセンティブ等の促進策が示されました。

最後に、同協議会会員を交えた質疑応答・意見交換が行われ、環境省の認定制度「自然共生サイト」との連携や、生物多様性クレジット等を活用した自然資本価値の見える化への展望、緑化推進からビジネスモデルを構築する必要性等について、活発に意見交換が行われました。

※NbS：自然を活用した解決策（Nature-based Solutions）

【参考】投融資におけるGI導入の訴求力向上に向けた検討～2025年1月25日ファイナンスチーム第一回資料～

- 「グリーンインフラの市場における経済価値に関する研究会」では、敷地内におけるグリーンインフラの取組と不動産価値の関係性についての経済価値分析や、REITを始めとした不動産関連企業・業界団体へのヒアリングを実施した。
- 経済価値分析の結果、都心5区において敷地内の緑地割合と賃料収入について有意な関係性が見られた。一方、ヒアリングにおいては、グリーン関連の取組が投資判断に大きくは影響しておらず、金融機関の融資においても金利引き下げ等はみられていないとの反応がみられた。
- 現状からグリーンを整備した不動産への投融資（開発案件など）とファイナンスについても投融資条件の優遇は見られないと予測されるが、これは①グリーンインフラの防災機能等の評価、②SPTSにおけるグリーン関連認証の取入れ、が進んでいないためと考えられる。
- これらの現状を整理し、金融機関等（アセットマネジメントや格付機関等）へのヒアリングを通じて、GI導入の訴求力を高めるための検討を進めていく。

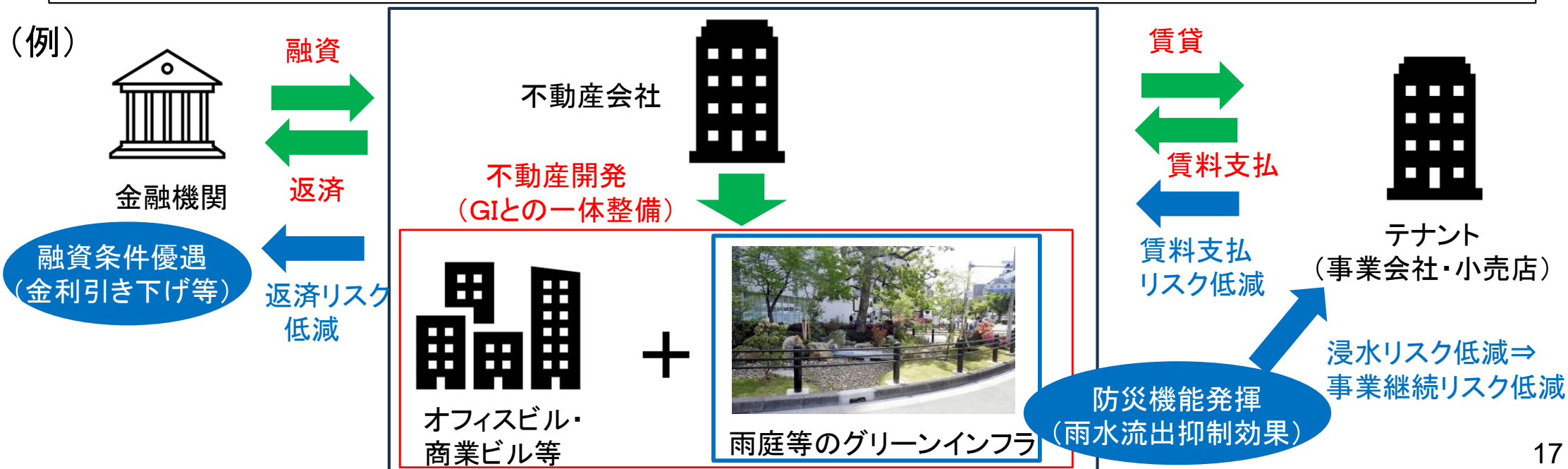
■不動産関連企業等へのヒアリング結果より抜粋（グリーンビルディングと投融資の関係性について）

- ・ グリーン関連の取組が投資判断にそこまで大きくは影響していない
- ・ グリーンだから金利が抑えられる等というようなメリットはない。どちらかというグリーンボンドによって地方銀行や学校法人など今まで当社に投資していなかった投資家層が関心を寄せるきっかけとなり、投資家の幅が広がるというメリットが大きい。
- ・ 金融機関の方でも、IR関係からグリーン性のあるものに融資したいという動機がある。

■GI導入の訴求力向上に向けた検討

- ・ グリーンインフラを不動産開発時に整備し、その防災機能等を事業継続リスクの低減として評価することで、投融資条件の優遇に繋げることができないか。
- ・ サステナビリティ・リンクローン組成におけるSPTSにおいて、「TSUNAG（優良緑地確保計画認定制度）」や「SEGES」、「ABINC」等の認証制度を指標として設定することができないか。

（例）



【参考】グリーンインフラに資するクレジットの市場整備に向けた整理

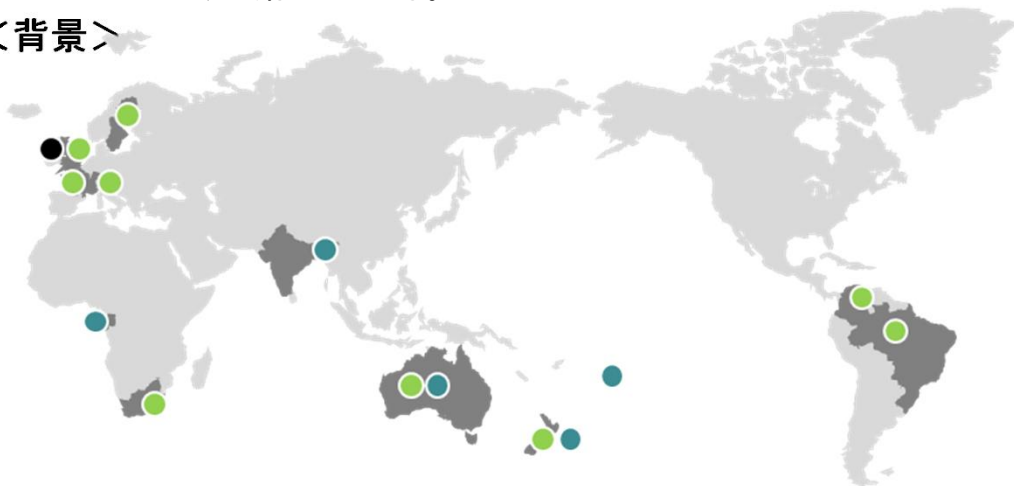
～2025年1月25日ファイナンスチーム第一回資料～

- 「グリーンインフラ事業・投資のすゝめ」では、世界ではカーボンクレジットのみならず、ネイチャークレジットの市場形成に向けた動きが進みつつあると整理された。
- さらに直近の、CBD COP16では、「Framework for high integrity biodiversity credit markets」(IAPB: 生物多様性クレジットに関する国際諮問委員会)が発表され、ネイチャークレジットと市場の安全性を確保するために必要な基準が提唱され、国際的に更なる議論が進んできている。
- 本ファイナンスチームでは、こうした背景を踏まえ、**グリーンインフラに資するクレジットの日本での市場整備に向けた課題を整理・分析**していく。

＜ネイチャークレジット市場形成の動向＞

- ✓ ネイチャークレジット市場は、一部の国/地域において民間または政府主導での立ち上げが始まっている。

＜背景＞



● 民間主導

- ・ オーストラリア
- ・ ニューージーランド
- ・ コロンビア
- ・ 英国
- ・ 南アフリカ
- ・ フランス
- ・ スイス
- ・ スウェーデン
- ・ ブラジル
- ・ Wallacea Trust Biodiversity Credits (国際)
- ・ Verified Impact Standards (国際)

● 政府主導

- ・ オーストラリア
- ・ ニウエ
- ・ ガボン
- ・ インド
- ・ ニューージーランド

● イニシアチブ

- ガバナンス/インテグリティに関するイニシアチブ
 - ・ WEF Biodiversity Credits Working Group (国際)
 - ・ Biodiversity Credits Alliance (国際)
 - ・ Taskforce for Nature Markets (国際)
 - ・ IUCN Global Standard For Nature Based Solutions (国際)
- 標準化に関するイニシアチブ
 - ・ VERRA (国際)
 - ・ Plan Vivo Foundation (英)

＜ネイチャークレジットの有効性とリスク＞

- ✓ ネイチャークレジットは、企業等が都市開発等において、その土地で生物多様性を再生・創出することができなかった際に、市場でアプローチすることができる、有効な解決策である。



- ✓ 一方で、現段階から国際的な取引を可能とすると、見せかけの環境配慮、グリーンウォッシュにつながるという危惧も根強く存在する。
- ✓ こうした背景より、公表された「高い信頼性のあるネイチャークレジット市場の枠組」(仮訳)では、地域と協働で解決に向かって取り組む「ランドスケープ・アプローチ」の考え方が重要であると示した。真に現場で支援を必要としている者に資金がまわり、根本的な課題解決につながるメカニズム構築に向けた議論が、引き続き展開される。

安全性を確保するための留意点

現場でとられた適切なデータ、及び科学的根拠に基づくこと

生物多様性の影響が及ぶ地域内でオフセットすること
(国境を越えたオフセットや二次流通市場は認めない)

クレジット購入者はサプライチェーンの関係者であること

現場で収集されたあらゆるデータに対し、その土地の人がアクセスできるようにすること

など

- 2025年3月13日(木)に、グリーンインフラ官民連携プラットフォームが主催となり、「グリーンインフラ×スタートアップ」をテーマとしたイベントを開催予定。
- グリーンインフラに関連する技術を持ったスタートアップと、グリーンインフラに関心のある企業との交流の機会を創出することで、更なるグリーンインフラの実装を目指していく。



グリーンインフラ
参加
無料
(cross)

グリーンインフラ スタートアップ X

@FUKUOKA

GREEN INFRA × START UP

日時:令和7年3月13日(木) 15:00~17:00
会場:GROWTH1
(福岡県福岡市中央区大名2丁目6-53 福岡大名ガーデンシティ・テラス内)

主催: グリーンインフラ官民連携プラットフォーム(事務局:国土交通省 総合政策局 環境政策課)
共催: 国土交通省 総合政策局 環境政策課、三井住友銀行、未来X(mirai cross)*
協力: 福岡銀行
後援: 福岡県、福岡地域戦略推進協議会、GREEN×GLOBE Partners

*未来X(mirai cross)は、SMBGグループが主催する、スタートアップを中心とした事業創出のプラットフォームで、産官学卒の多様なプレイヤーが参加し、スタートアップのステージに応じた支援や事業会社等の産業や事業創出のサポートを行っています。

SMBC Group
未来X mirai cross
福岡銀行
Fukuoka D.C.
福岡地域戦略推進協議会

■主催

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

■共催

国土交通省 総合政策局 環境政策課、三井住友銀行、未来X(mirai cross)

■協力

福岡銀行

■後援

福岡県、福岡地域戦略推進協議会、GREEN×GLOBE Partners

■当日プログラム

○ 開会挨拶

○ 基調講演Ⅰ

「グリーンインフラの普及・促進について(仮)」

国土交通省 総合政策局 環境政策課 課長補佐 高森 真人氏

○ 基調講演Ⅱ

「グリーンインフラに求められる技術革新について(仮)」

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム 技術部会長

国立研究開発法人土木研究所 流域水環境研究グループ長 中村 圭吾氏

○ スタートアップからのピッチ

株式会社aiESG、株式会社サンリット・シーリングス、株式会社スペースシフト、ミドリクNbS株式会社

【参考】グリーンインフラ創出促進事業

- グリーンインフラに係る要素技術の導入実績が少ないことから、小規模な地域実証により**地域課題に対する新技術の実用性**を明らかにし、情報の水平展開を図るなど、**少ない財政措置を前提に投資の呼び水となる支援**が求められる。
- このため、実用段階に達していない技術シーズを有する企業等の地域実証を支援し、新技術を活用しやすい環境整備を行うことにより、当該技術の実用化を図り、**地域におけるグリーンインフラの社会実装を促進**する。

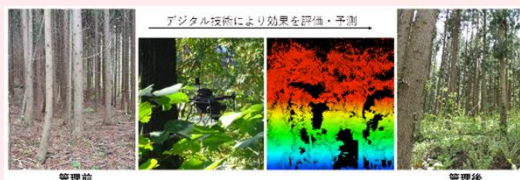
募集する技術の例（R7年度応募例事例）

定量的な効果のモニタリング技術

■緑地・森林の地下水涵養機能増進に向けた緑地・森林管理影響評価手法の標準化

応募者：鹿島建設（株）

- 緑地・森林に対する管理方法の差異が地下水涵養機能に与える効果は地域差が存在すると想定されるが、既往研究では地域差を反映させるためのパラメータの調整方法等は明らかとなっていない。
- このため、当該機能に関連する各種要素に着目し、様々なタイプの緑地・森林を調査するとともに地域特性を反映させるモデル調整手法を確立する。



デジタル技術を活用し、緑地・森林管理による水源涵養機能の向上効果を評価・予測

〔実証フィールド：神奈川県伊勢原市、長野県軽井沢町、北海道札幌市等〕

■高解像度の衛星画像データとAIを活用した「みどり」のモニタリング・評価技術

応募者：（株）NTTデータ



評価結果の可視化イメージ

- 都市の緑地をグリーンインフラとして効果的に活用するためには、効率的に高精度な「みどり」のデータを収集し、地方公共団体等における計画等での活用や民間企業による緑化の取組等を促進することが求められる。

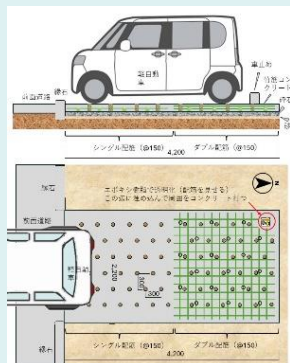
- このため、衛星画像データとAI解析により、効率的に高精度な「みどり」のデータを収集し、関係する認定制度や国際的な基準等における評価や生態系サービスの評価を自動算出する手法を開発する。

〔実証フィールド：神奈川県川崎市〕

防災・減災に係る雨水浸透技術

■地域材（竹、稲わら等）を活用した雨水貯留機能に関する多面的評価

応募者：公益財団法人地方経済総合研究所



実証方法（イメージ図）

- 豪雨被災や半導体ビジネス関連企業の集積による「公共水」への依存度増加などにより、既存の地下水涵養の取組や条例等によるネガティブインパクトを軽減させる自治体施策だけでは、ウォーターニュートラルの達成は困難な状況にある。

- このため、地域材（竹、稲わら等）を活用した雨庭や竹筋コンクリート舗装の駐車場を実装し、浸透能等の検証を行うとともに、多面的な機能評価・社会インパクトを整理することで、技術的な配慮事項を取りまとめる。

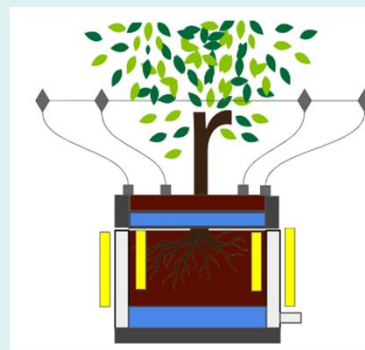
〔実証フィールド：熊本県球磨郡あさぎり町〕

その他グリーンインフラに関する技術

■自然機能の強化と補完的な構造による自己完結型グリーンインフラ・ユニットの研究開発

応募者：GIユニット研究共同体

（東邦レオ株式会社、学校法人京都産業大学、株式会社オルタナティブ・マシン）



グリーンインフラ・ユニット構成イメージ図

- 気候変動に伴う猛暑や豪雨への対策として、グリーンインフラの迅速な展開が求められるが、従来型整備では、設計・施工の検討や予算確保に時間を要し、また維持管理のコストも導入の制約となる。

- このため、集水効率を高める構造システム、再生可能エネルギーによる自立的な制御機構、微生物を活用した生育環境の最適化技術を開発・統合し、設置場所に水道・電力インフラを必要としない、自己完結型のグリーンインフラ・ユニットを開発する。

〔実証フィールド：三重県いなべ市〕

【参考】優良緑地確保計画認定(TSUNAG)とグローバル基準との連携

＜GRESB（GRESB）との連動＞

TSUNAG認定が、不動産企業等のESGへの取組度合いを企業単位で評価する国際的な基準であるGRESBの評価項目のうち、「グリーンビル認証」（GRESBが承認する環境に配慮した物件の認証）として認められ、TSUNAG認定の取得により、GRESBでの評価を高めることが可能。

（2025年2月発行の参照ガイドに記載予定。同年4月の申請から適用）

＜TNFD（ティー・エヌ・エフ・ディー）のガイドラインへの位置付け＞

TSUNAG認定の取得を、自然関連の財務情報を評価・開示するTNFDのガイドラインに位置付けがあるものとして、企業が情報開示・広報することが可能。

（2025年1月公表の「エンジニアリング・建設・不動産向けの追加セクターガイダンス」に記載）

GRESB (Global Real Estate Sustainability Benchmark)

【GRESBとは】

不動産企業やJ-REIT等の不動産ファンドにおける環境等のESGへの取組度合いを企業単位で評価する国際的な基準。（GRESBは本部：オランダ・アムステルダムが基準設定）

【GRESBの評価手法】

「保有不動産の運用」又は「新規開発」でのESGに関わる取組を、エネルギー消費量、「**グリーンビル認証**」の取得状況、地域コミュニティ等への働きかけ、従業員への配慮等の項目により100点満点で評価。

※「**グリーンビル認証**」の項目は、「保有不動産の運用」の場合は8.5点、「**新規開発**」の場合は9点が配分。
配分されたいずれかの点数に、**全ての建築物の床面積に占める「グリーンビル認証」を取得している建築物の床面積の割合**を掛け合わせて評価。

TSUNAG認定との連携

TSUNAG認定を取得した計画の区域内にある建築物の床面積のうち**60%（※）を、「グリーンビル認証」を取得している建築物の床面積として加算することが可能。**

（例）GRESBに「新規開発」（グリーンビル認証：9点配分）（*1）で申請。
企業がその年に新規開発した建築物の総床面積が10,000㎡（*2）であり、その内5,000㎡の床面積を有する計画でTSUNAG認定を取得（*3）した場合。

$$9 \text{ 点} * 1 \times \frac{5,000 \text{ ㎡} * 3 \times 60\% (\text{※})}{10,000 \text{ ㎡} * 2} = 2.7 \text{ 点 の加算}$$

TNFD (Taskforce on Nature-related Financial Disclosures)

【TNFDとは】

企業が**自然に関連する財務情報を評価・開示する枠組み**を構築するために設立された国際的な組織。（日本語名称：自然関連財務情報開示タスクフォース）

【TNFDの評価・開示の枠組み】

TNFDは、**評価・開示の枠組み**として、情報開示の際の推奨項目・指標等の提言、企業活動の自然に与える影響等を評価するための手法等を内容とする**全分野向けのガイドラインを2023年9月に公表。**

エンジニアリング・建設・不動産分野向けに自然に与える影響等を評価するための詳細な手法、追加で情報開示が推奨される項目・指標等を内容とする追加のガイドライン（エンジニアリング・建設・不動産向けの追加セクターガイダンス）**を2025年1月に公表。**

TSUNAG認定との連携

エンジニアリング・建設・不動産分野向けの追加ガイドライン中、

- ・企業活動の自然への依存度や自然に与える影響等の評価手法
- ・自然へ与える悪影響を回避するための方策
- ・追加で情報開示が推奨される項目の「緑地の創出」

に関する**評価・開示の際の出典の一つとしてTSUNAG認定を記載**している。